

米国における職業リハビリテーションにおけるアセスメント方法

研究分担者 八重田 淳 (筑波大学)

3.1. はじめに

職業リハビリテーションにおける就労アセスメントは、職業評価あるいは職場における職業評価(On the Job Evaluation: OJE)の一部として捉えることができる。この考え方の基本は、米国で展開されている包括的な職業リハビリテーション及びその技法の一つである就労支援の研究動向と実践に見ることができる。

しかしながら、就労アセスメントツールとアセスメント手法の活用実態については、職業評価法に関する米国の先行研究、アセスメントの開発動向、サービス実践を含め、我が国では関連情報が極めて不足しているのが現状である。

そこで本研究では、職業評価における先進国である米国における就労アセスメントの歴史とアセスメントツールの開発動向を探るため、先行文献を概観した。さらに、現在の米国におけるアセスメントの研究および実践の国際的な動向と現状における課題を探るために、国際カンファレンス参加による現地訪問と研究職へのヒアリングを実施し、我が国の就労アセスメントに関する課題を探ることを目的とした。

3.2. 方法

3.2.1. 文献研究

検索キーワードを career assessment とし、検索エンジンを Google Scholar とし、検索式を vocational evaluation career assessment disability work OR adjustment "vocational rehabilitation" -validity source:Journal source-of source:Vocational source:Rehabilitation、検索期間を 1920 年～2020 年とし、抽出された 513 件の文献の中から、本研究の主旨に適合する文献を厳選し、就労アセスメントや職業評価に関する歴史的変遷と現時点での実践と研究の動向を把握することとした。

3.2.2. ヒアリング調査

現在の米国におけるアセスメントの研究および実践

の国際的な動向と現状における課題を探るために、国際カンファレンス参加による現地訪問と研究職へのヒアリングを実施した。

3.3. 結果

3.3.1. 歴史的背景

まず、職業評価(vocational evaluation)と就労アセスメント(work assessment)という二つの概念についてアメリカの歴史的背景から整理する。

アメリカの職業リハビリテーション領域において、障害者の職業評価に関する実践、研究、専門職教育は 1960 年代から活発に展開されている。この最も顕著な取り組みは、職業評価・職場適応協会(Vocational Evaluation and Work Adjustment Association: VEWAA)は 1967 年の創設に見ることができる。

VEWAA は、アメリカで援助付き雇用(Supported Employment)によるジョブコーチが展開される 20 年前から、その基礎領域として専門的に展開されている。VEWAA における Work Adjustment は職場適応であるから、現在の日本における職場適応援助者(通称、ジョブコーチ)の土台になっていることが推察される。VEWAA は、職業評価と職場適応援助に特化した専門職の組織であるが、2003 年にその名称を、職業評価・キャリアアセスメント専門職協会(Vocational Evaluation and Career Assessment Professionals Association: VECAP)に変更した。したがって、職業評価と就労アセスメント(キャリア・アセスメント)という 2 つの領域が改めて統合されたことになる。

VECAP への名称変更の社会的背景には、本来包括的な障害者の職業リハビリテーションという領域の中で、職業評価を「職業前評価」に偏重しがちであるという批判と、就労後支援に重点を置いた援助付き雇用の発展とが相まって存在する。しかし、職業評価は就労前の職業評価だけではなく、当然のことながら就職後の職場における評価(OJE)も含んでいる。

就労可能性を評価するアセスメントは、職業評価の

一部である。特にインテークアセスメントは、職業リハビリテーションサービスを効果的に活用するために大切なアセスメントである。この就労アセスメントは、歴史的には1967年後から続いている公認職業評価専門職(Certified Vocational Evaluation Specialist : CVE)が、各州の職業リハビリテーション機関・施設において提供してきた。公認のリハビリテーションカウンセラー(Certified Rehabilitation Counselor : CRC)の中には、CVE資格を有する者も以前は多く存在したが、近年ではCRCが職業評価を含めた包括的な職業リハビリテーションサービス専門職として活躍しているようである。ただし職業評価・職場適応・就労アセスメントに特化してきたVECAPは、現在でもCVE専門資格の認定母体として、現在もその活動が展開されているという。近年では国際化が顕著であり、2019年10月には、カナダにおける同様の協会と連携して国際認定職業評価士(International Certified Vocational Evaluator : ICVE)の認定事業創設に関する合意形成が発表されたばかりである。

一方、わが国では、1960年代から発展してきたアメリカの職業評価法を取り入れるための有志で結成された職業リハビリテーション研究会(現在の日本職業リハビリテーション学会)で、様々な職業評価法が導入されてきたわけであるが、就労アセスメントに関しては、特に近年における実践的な取り組みや研究が不足していることが懸念される。

現在、米国では、就労支援を担うジョブコーチ(日本の職場適応援助者)とそれを包括的な職業リハビリテーションサービスの一つとして提供する「職業リハビリテーションカウンセラー」(日本の障害者職業カウンセラー)が存在するが、これらの職種は、医療、教育、福祉における関連専門職が存在する多職種・多機関連携を基本として活躍している。

こうした中で、障害者の就労アセスメント項目に含まれるべき内容については、それぞれの時代と文化背景、技術革新、科学的根拠に基づく実践と成果などを踏まえたものにする必要がある。それは就労の可否を判別する単純構造ではなく、労働の質、働き甲斐、生き甲斐までを含むものにすべきである。

3.3.2. 職業評価・就労アセスメントに関する先行研究

就労支援アセスメントや職業評価研究の中で、心理学的な尺度を用いたものは多数見受けられる(Aiken,

1997; Berven, 1979; Belacchi, et al.,2008; Cochran, 1990; Reid, 1995; Szymula & Schleser, 1986; Wesolek & McFarlane, 1992)。

アセスメントを障害別に見ると、高次脳機能障害(Balutanski, 1990; McMahon & Fraser, 1988 ; Fraser, Clemmons, & McMahon, 1990; Fraser, McMahon, Vogenthaler, Wehman, Kreutzer, Wood, et al, 1988), 知的障害や発達障害(Hartley, & MacLean, 2006; Schalock, Brown, Brown, Cummins, Felce, Matikka, et al., 2002; Salkever, 2000; Santilli, Nota, Ginevra, & Soresi, 2014; Shogren, 2013)、精神障害(Green, 2011 ; Jeger & Slotnick, 1982)、聴覚障害(Menchetti, Flynn, 2007)といった障害特性に応じたアセスメントに関する研究が多い。

また、援助付き雇用などの就労支援技法の開発に関するアセスメント(Langford & Lawson, 1994; Menchetti & Flynn, 1990)、競争的な職場におけるアセスメント(Chadsey-Rusch, Rusch, 1988; Menchetti & Flynn, 2007)、学校から職場への移行と職場適応のアセスメント(Dawis, 1968, 1987 ; Koen, Klehe, Van Vianen, 2012; Pattengale, 2009; Wehman, Schall, McDonough, Molinelli, Riehle, Ham, et al., 2013)など、職業リハビリテーションを包括的かつ専門的に捉えた先行研究の多くが米国で実施されている。

さらに、キャリア発達やキャリア適応の視点から見たアセスメント(Goodman, 1994; Hirschi, 2009; Karaevli & Hall, 2006; Power & Hershenson, 2001; Rumrill & Roessler, 1999; Savickas, 2013; Savickas & Porfeli, 2012; Szymanski & Hershenson, 1998; Koen, Klehe, Van Vianen, Zikic, & Nauta, 2010)や、職業リハビリテーションのアウトカムとして極めて重要とされる当事者から見た主観的なウェルビーイング(Diener & Biswas-Diener, 2002; European Foundation for the Improvement of Living and Working Conditions; 2010; Diener, Emmons, Larsen, & Griffin, 1985; Mehnert, Krauss, Nadler, & Boyd, 1990; Pavot, & Diener, 1993)の研究も多い。

さらに近年におけるポジティブ心理学の知見を経て、就労を含めた希望に関するもの(Snyder, 1994, 2000, 2004, Snyder, Harris, Anderson, Holleran, Irving, Sigmon, et al.,1991)、仕事に対するポジティブで充実した心理状態として提唱されている「ワークエンゲージメント」に関するアセスメント(Hong & Choi, 2013;

Ouweneel, Le Blanc, Schaufeli, & van Wijhe, 2012; Peterson & Byron, 2008; Scioli, Chamberlin, Samor, Lapointe, Campbell, Macleod, et al., 1997; Scioli, Ricci, Nyugen, & Scioli, 2011)、そして、ポジティブ心理学的な視点を生かす要因として本人の「職業的な強み」や「特性」に関するアセスメント(Harmon, Hansen, Borgen, Ham& mer, 1994; Holland, 1973)も、就労アセスメントの中ではクラシックなものと言える。また、ポジティブな面だけではなく、職場におけるストレスのアセスメント (Kanner, Coyne, Schaefer, & Lazarus, 1981; Moos & Swindle, 1990; O'Driscoll & Cooper, 1996)なども研究としては歴史も長く、時代を超えたアセスメント領域の一つとなっている。

その一方で、職業リハビリテーションカウンセラーといった専門職に対する視点に焦点を当てた研究(Chan, Parker, Lynch, & Johnson, 1986)、職業リハビリテーションサービス自体のアセスメント(Gibbs, 1990)、法制度におけるアセスメントの位置付け(Ebener, Burkhead, Merydith, 1994)といったものも散見され、アセスメントはその国の制度政策による位置付けの重要性を示唆するものであることがわかる。

3.3.3 現地ヒアリング調査

現在の米国におけるアセスメントの研究および実践の国際的な動向と現状における課題について、2019年度に米国ハワイ州で開催された国際障害ダイバーシティカンファレンスに参加し、ハワイ大学障害科学研究所の Stodden 教授、Yuen 教授らと面会し、アメリカにおける職業リハビリテーションにおけるアセスメント研究動向に関するヒアリングを実施した。

その結果、(1) 近年においては職業評価よりも就労の場である事業所や職場における実践的なアセスメントが慣例化していること、(2) 職業的なスキルや資質に加え、本人の自己決定による職業の選択肢(福祉的就労、競争的雇用含む)を可能な限り豊富に提供できる支援体制に関する研究と取り組みが多いこと、さらに、

(3) 社会心理的なアセスメント項目として労働生活の質(Quality of Working Life : QWL)を初期段階から継続的に実施することによって職場定着支援へと繋げる実践が重要視されているが、そうしたアセスメント研究の蓄積が世界的には非常に偏っている傾向があるため、一般化には制限があるのではないかと、といった示唆を得ることができた。

上記(2)で取り上げられた自己決定による職業決定支援に関する具体的な取り組み内容に関する国際的な取り組みとして、シドニー大学では本人による選択肢と好みが生涯を通じて発達していくという前提から、特に知的障害を持つ人のそうした選択肢と好みをどのようにアセスメントすべきかについて現在取り組んでいるという紹介が Roger Stancliffe 教授からあった。引き続きこの領域で国際的なリーダーシップをとっているアメリカのカンザス大学発達障害支援センター(KUCDD)の Karrie A. Shogren 教授と Michael Wehmeyer 教授らによる自己決定理論が紹介され、自己決定尺度(Self-Determination Inventory, SDI)のグローバル化が求められるという示唆を得ることができた。さらに、ミネソタ大学の Abery 教授(Co-Director Research and Training Center on HCBS Outcome Measurement, University of Minnesota, Institute on Community Integration)と面会し、障害者雇用を意義あるものにするための国際比較研究 (*Making employment meaningful for people with disabilities*)について意見交換を行い、その結果、就労アセスメント項目の中に「働く意義」「労働の意味」「働き甲斐」「幸福」といった抽象的ではあるが労働の根幹となる概念を取り入れることの重要性と妥当性を確認することができた。

3.4. 考察

我が国の就労支援アセスメント・職業評価に関する研究は、国際研究水準から一步遅れているのが現状である。文献研究とヒアリングによるアセスメント研究課題について以下に考察する。

3.4.1. 職場におけるアセスメント

職業評価を含むアセスメントとして、米国の歴史からは On the Job Evaluation (OJE)という流れがあり、これは職業前評価ではなく、職場実習や就職後の評価である。現在は、援助付き雇用の発展背景を踏まえるなら、就労支援の初期段階における職場アセスメント(On the Job Assessment)を実習先や職場でジョブコーチが提供することが慣例化しているようである。問題は、これが競争的職場で行われることはあっても、前段階としての就労移行支援事業所、就労継続支援A型B型事業所においては、実施が容易ではないことが挙げられる。その背景として、就労支援アセスメントに特化した

専門職の不在が挙げられる。米国のように、職業評価・アセスメントの専門職である CVE は我が国では見当たらず、この研究領域や専門職団体もないのが現状である。したがって、今後我が国でも同様の職種の開発推進を高等教育で実施することが望ましい。少なくとも現任者研修を実施し、職場におけるアセスメント手法と障害に関する知識を習得できる機会をより多く提供することが期待される。

3.4.2. 職業の自己決定のアセスメント

職業選択は、自身の人生にも関わる重要な局面であるにも関わらず、その選択を全て自分で決めることは容易ではない。保護者や自身が影響を受けた人物、ソーシャルネットワークの有無によっても自己決定自体を支援する決定的な理論はないだろう。そうした中で、障害のある人に自己決定を促すだけでは支援者として問題が残るだろう。今回のヒアリングや文献研究から、自己決定尺度といった本人中心のアセスメントの重要性が示唆された。今後、自己決定を支援する専門職の資質自体を評価するアセスメントの開発も研究課題の一つとして残される。

3.4.3. 労働生活の質(Quality of Working Life, QWL)のアセスメント

Quality of Life (QOL, 生き甲斐)と双璧をなすと言える QWL のアセスメント尺度は、特に障害に特化したものとしては見当たらない。ミネソタ大学による QWL の研究によると、米国では複数の先行研究が見られるものの、発展途上国やアジア圏では該当する知見が極めて少ない。QWL の構成概念妥当性に関する知見は、ある程度存在するが、我が国の就労支援対象者に対して QWL アセスメント尺度を用いた大規模調査は見当たらない。「労働の意義」「なぜ働くか」「何を目指して働くか」といった社会心理的アセスメントの研究課題は尽きない。労働の根幹となり得るこうした社会心理状態が、障害の有無や程度に関わらず、働く人にとって普遍的なものとするなら、その状態像を定量的に把握できるアセスメントの開発は喫緊の課題である。

3.5. 参考文献

- 1) Aiken, L.R. Psychological Testing and Assessment. 9. Allyn and Bacon, Boston; 1997.
- 2) Balutanski, J. Vocational assessment: A VR

counselor's perspective. in: Corthell D. (Ed.) Traumatic Brain Injury and Vocational Rehabilitation. The Research and Training Center, University of Wisconsin-Stout, Menomonie, WI; 1990:141-180.

- 3) Berven, N.L. Psychometric assessment in rehabilitation. in: Bolton B. (Ed.) Rehabilitation Client Assessment. University Park Press, Baltimore; 1979:46-64.
- 4) Belacchi, C., Scalisi, T. G., Cannoni, E., & e Cornoldi, C. (2008). Manuale CPM. Coloured progressive matrices. Standardizzazione Italiana. CPM Handbook. Coloured progressive matrices. Italian standardization. Firenze: Giunti OS.
- 5) Chan, F., Parker, H. J., Lynch, R. T., & Johnson, K. (1986). Perceived social standing of rehabilitation counselors in medical settings. Rehabilitation Counseling Bulletin, 29(3), 205-208.
- 6) Chadsey-Rusch, J., Rusch, F.R. Ecology of the work place. in: Gaylord-Ross R. (Ed.) Vocational Education for Persons With Special Needs. Mayfield, Mountain View, CA; 1988:234-256.
- 7) Cochran, L. (1990). What is a career problem? Career Development Quarterly, 42,201-215. Crites, J. (1982). Measurement of career development. In B. Bolton & R. Roessler (Eds.), Proceedings of the symposium on applied research (pp. 1-8). Fayetteville, AR: Research and Training Center.
- 8) Dawis, R., Lofquist, L., Weiss, D. A Theory of Work Adjustment. Minnesota Studies in Vocational Rehabilitation, XXIII, Industrial Relations Center, University of Minnesota, Minneapolis; 1968.
- 9) Dawis, R. A theory of work adjustment. in: Bolton B. (Ed.) Handbook on the Measurement and Evaluation in Rehabilitation. 2. Paul H. Brooks, Baltimore, MD; 1987:207-217
- 10) Diener, E., & Biswas-Diener, R. (2002). Will money increase subjective well-being? Social Indicators Research, 57(2), 119-169.
- 11) Diener, E. D., Emmons, R. A., Larsen, R. J., &

- Griffin, S. (1985). The satisfaction with life scale. *Journal of Personality Assessment*, 49(1), 71–75. http://dx.doi.org/10.1207/s15327752jpa4901_13.
- 12) Dix, J., & Savickas, M. (1995). Establishing a career: Developmental tasks and coping responses. *Journal of Vocational Behavior*, 47, 93–107.
 - 13) Ebener, D.J., Burkhead, E.J., Merydith, S.P. The Americans with Disabilities Act: Implications for vocational assessment. *Assessment in Rehabilitation and Exceptionality*. 1994;1:91–98
 - 14) European Foundation for the Improvement of Living and Working Conditions (2010). Second European quality of life survey. Subjective well-being in Europe. Dublin: European Foundation for the Improvement of Living and Working Conditions.
 - 15) Fraser, R.T., Clemmons, D.C., McMahan, B.T. Vocational rehabilitation. in: Kreutzer J.S., Wehman P.H. (Eds.) *Community Integration Following Traumatic Brain Injury*. Paul H. Brookes, Baltimore; 1990:169–184
 - 16) Fraser, R.T., McMahan, B.T., Vogenthaler, D.R. Vocational rehabilitation counseling with persons with head injury. in: Rubin S.E., Roessler R.T. (Eds.) *Foundations of the Vocational Rehabilitation Process*. 3. PRO-ED, Austin, TX; 1988:217–242
 - 17) Gibbs, W. (1990). Alternative measures to evaluate the impact of vocational rehabilitation services. *Rehabilitation Counseling Bulletin*, 34, 33-43.
 - 18) Goodman, J. (1994). Career adaptability in adults: A construct whose time has come. *Career Development Quarterly*, 43, 74-84.
 - 19) Green, F. (2011). Unpacking the misery multiplier: How employability modifies the impacts of unemployment and job insecurity on life satisfaction and mental health. *Journal of Health Economics*, 30(2), 265–276.
 - 20) Harmon, L.W., Hansen, J.C., Borgen, F.H., Hammer, A.L. *Strong Interest Inventory: Applications and Technical Guide*. Consulting Psychologists Press, Palo Alto, CA; 1994
 - 21) Hartley, S. L., & MacLean, W. E. (2006). A review of the reliability and validity of Likert - type scales for people with intellectual disability. *Journal of Intellectual Disability Research*, 50(11), 813 - 827. <http://dx.doi.org/10.1111/j.1365-2788.2006.00844.x>.
 - 22) Hirschi, A. (2009). Career adaptability development in adolescence: Multiple predictors and effect on sense of power and life satisfaction. *Journal of Vocational Behavior*, 74(2), 145–155. <http://dx.doi.org/10.1016/j.jvb.2009.01.002>.
 - 23) Holland, J.L. *Making Vocational Choices: A Theory of Vocational Personalities and Work Environments*. 2. Psychological Assessment Resources, Odessa, FL; 1973
 - 24) Hong, P. Y. P., & Choi, S. (2013). The employment hope scale: Measuring an empowerment pathway to employment success. *International Journal of Psychology Research*, 8(3).
 - 25) Jeger, A., Slotnick, R. *Community mental health*. in: Jeger A., Slotnick R. (Eds.) *Community Mental Health and Behavioral Ecology*. Plenum, New York; 1982:7–24
 - 26) Kanner, A. D., Coyne, J. C., Schaefer, C., & Lazarus, R. S. (1981). Comparison of two modes of stress measurement: Daily hassles and uplifts versus major life events. *Journal of Behavioral Medicine*, 4(1), 1–39.
 - 27) Karaevli, A., & Hall, D. T. (2006). How career variety promotes the adaptability of managers: A theoretical model. *Journal of Vocational Behavior*, 69(3), 359–373. <http://dx.doi.org/10.1016/j.jvb.2006.05.009>.
 - 28) Koen, J., Klehe, U. C., & Van Vianen, A. E. M. (2012). Training career adaptability to facilitate a successful school-to-work transition. *Journal of Vocational Behavior*, 81, 395–408. <http://dx.doi.org/10.1016/j.jvb.2012.10.003>.
 - 29) Koen, J., Klehe, U. C., Van Vianen, A. E., Zikic, J., & Nauta, A. (2010). Job-search strategies and reemployment quality: The impact of career adaptability. *Journal of Vocational Behavior*, 77(1),

- 126–139.
<http://dx.doi.org/10.1016/j.jvb.2010.02.004>.
- 30) Langford, C.A., Lawson, S. Changes in assessment procedures for supported employment. *Assessment in Rehabilitation and Exceptionality*. 1994;1:307–322
- 31) McMahon, B.T., Fraser, R.T. Basic issues and trends in head injury rehabilitation. in: Rubin S.E., Rubin N. (Eds.) *Contemporary Issues in Rehabilitation Counseling*. Paul Brookes, Austin, TX; 1988:197–216
- 32) Menchetti, B.M., Flynn, C.C. Supported employment: New directions for vocational evaluation. in: Rusch F.R. (Ed.) *Supported Employment: Models, Methods, and Issues*. Sycamore Publishing, Sycamore; 1990:111–130
- 33) Mehnert, T., Krauss, H., Nadler, R., & Boyd, M. (1990). Correlates of life satisfaction in those with disabling conditions. *Rehabilitation Psychology*, 35, 3-17.
- 34) Moos, R., & Swindle, R. (1990). Stressful life circumstances: Concepts and measures. *Stress Medicine*, 6, 171-178.
- 35) O'Driscoll, M., & Cooper, C. (1996). A critical incident analysis of stress-coping behaviors at work. *Stress Medicine*, 12, 123-128.
- 36) Ouweneel, E., Le Blanc, P. M., Schaufeli, W. B., & van Wijhe, C. I. (2012). Good morning, good day: A diary study on positive emotions, hope, and work engagement. *Human relations*, 65(9), 1129–1154.
<http://dx.doi.org/10.1177/0018726711429382>.
- 37) Pattengale, J. (2009). The Hope Scale: A measurement of willpower and waypower. In R. L. Swing (Ed.), *Proving and improving. Tools & techniques for improving the first college year* (monograph 37), II. (pp. 157–160). Columbia, SC: USC, National Resource Center for the First-year Experience and Students in Transition.
- 38) Pavot, W., & Diener, E. (1993). Review of the satisfaction with life scale. *Psychological Assessment*, 5(2), 164.
<http://dx.doi.org/10.1037/1040-3590.5.2.164>.
- 39) Peterson, S. J., & Byron, K. (2008). Exploring the role of hope in job performance: Results from four studies. *Journal of Organizational Behavior*, 29(6), 785–803. <http://dx.doi.org/10.1002/job.492>.
- 40) Power, P., & Hershenson, D. (2001). Assessment of career development and maturity. In B. Bolton (Ed.), *Handbook of measurement and evaluation in rehabilitation* (pp. 339-364). Austin, TX: PROED.
- 41) Reid, C. Application of Item Response Theory to practical problems in assessment with people who have disabilities. *Assessment in Rehabilitation and Exceptionality*. 1995;2:89–96
- 42) Rumrill, E, & Roessler, R. (1999). New directions in vocational rehabilitation: A career development perspective on closure. *Journal of Rehabilitation*, 65(1), 26-30.
- 43) Salkever, D. (2000). Activity status, life satisfaction, and perceived productivity for young adults with developmental disabilities. *Journal of Rehabilitation*, 66(3), 4-13.
- 44) Santilli, S., Nota, L., Ginevra, MC., & Soresi, S. (2014). Career adaptability, hope and life satisfaction in workers with intellectual disability. *Journal of Vocational Behavior*, 85, 67-74
<http://dx.doi.org/10.1016/j.jvb.2014.02.011>
- 45) Savickas, M. L. (2013). Career construction theory and practice. Career development and counseling: Putting theory and research to work. In R. W. Lent, & S. D. Brown (Eds.), *Career development and counseling: Putting theory and research to work* (pp. 144–180) (2nd ed.). Hoboken: John Wiley & Sons.
- 46) Savickas, M. L., & Porfeli, E. J. (2012). Career Adapt-Abilities Scale: Construction, reliability, and measurement equivalence across 13 countries. *Journal of Vocational Behavior*, 80(3), 661–673.
<http://dx.doi.org/10.1016/j.jvb.2012.01.011>.
- 47) Scherich, D. (1996). Job accommodations in the workplace for people who are deaf or hard of hearing: Current practices and recommendations. *Journal of Rehabilitation*, 62(2), 27-35.

- 48) Schalock, R. L., Brown, I., Brown, R., Cummins, R. A., Felce, D., Matikka, L., et al. (2002). Conceptualization, measurement, and application of quality of life for persons with intellectual disabilities: Report of an international panel of experts. *Journal Information*, 40(6). [http://dx.doi.org/10.1352/0047-6765\(2002\)040b0457](http://dx.doi.org/10.1352/0047-6765(2002)040b0457).
- 49) Scioi, A., Chamberlin, C. M., Samor, C. M., Lapointe, A. B., Campbell, T. L., Macleod, A. R., et al. (1997). A prospective study of hope, optimism, and health. *Psychological Reports*, 81(3), 723–733.
- 50) Scioi, A., Ricci, M., Nyugen, T., & Scioi, E. R. (2011). Hope: Its nature and measurement. *Psychology of Religion and Spirituality*, 3(2), 78.
- 51) Shogren, K. A. (2013). Considering context: An integrative concept for promoting outcomes in the intellectual disability field. *Intellectual and Developmental Disabilities*, 51(2), 132–137. <http://dx.doi.org/10.1352/1934-9556-51.2.132>.
- 52) Snyder, C. R. (1994). *The psychology of hope: You can get there from here*. Simon and Schuster.
- 53) Snyder, C. R. (Ed.). (2000). *Handbook of hope: Theory, measures, and applications*. Academic Press.
- 54) Snyder, C. R. (2004). Hope and depression: A light in the darkness. *Journal of Social and Clinical Psychology*, 23(3), 347–351.
- 55) Snyder, C. R., Harris, C., Anderson, J. R., Holleran, S. A., Irving, L. M., Sigmon, S. T., et al. (1991). The will and the ways: Development and validation of an individual-differences measure of hope. *Journal of Personality and Social Psychology*, 60(4), 570–585. <http://dx.doi.org/10.1037/0022-3514.60.4.570>.
- 56) Stensrud, R. (2007). Developing relationships with employers means considering the competitive business environment and the risks it produces. *Rehabilitation Counseling Bulletin*, 50(4), 226–237. <http://dx.doi.org/10.1177/00343552070500040401>.
- 57) Szymanski, E., & Hershenson, D. (1998). Career development of people with disabilities: An ecological model. In R. Parker & E. Szymanski (Eds.), *Rehabilitation counseling: Basics and beyond* (pp. 327-378). Austin, TX: PRO-ED.
- 58) Szymula G, Schleser R: Are appraisal of vocational evaluation from an ecological systems perspective. *Rehabilitation Literature* 47:224-229, 1986
- 59) Wehman, P., Schall, C., McDonough, J., Molinelli, A., Riehle, E., Ham, W., et al. (2013). Project SEARCH for youth with autism spectrum disorders increasing competitive employment on transition from high school. *Journal of Positive Behavior Interventions*, 15(3), 144–155. <http://dx.doi.org/10.1177/1098300712459760>.
- 60) Wehman, P., Kreutzer, J., Wood, W. et al, Supported work models for persons with traumatic brain injury; Toward job placement and retention. *Rehabilitation Counseling Bulletin*. 1988;31:298–312
- 61) Wesolek, J., McFarlene, F. Vocational assessment and evaluation: Some observations for the past and anticipation for the future. *Vocational Evaluation and Work Adjustment Bulletin*. 1992;25:51–54